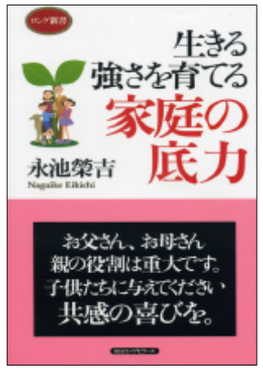
永池会長：新著



永池会長の新著がＫＫロングセラーズ社から発行されています。

会長が永年にわたって説いてこられた、家庭・子育て、さらには父親のありかたについて具体的事例を添えて述べておられます。

特に掲載されている事例はマスターズがまとめた「危機管理事例集」から採用されています。本書発売後の紀伊国屋第1週ランキングは、紀伊国屋全店ベースで20位、うち新宿本店では第2位、南口店が第1位でした。第2週は全店で、29位となっているそうです。定価840円。是非お求め下さい。

永池会長：2011年1月新春寿交禮開催日程

11日(火)	首都圏	ホテル　ザ・エルシー町田
12日(水)	東海	ホテル　グランベール岐山
13日(木)	中国	広島サンプラザ
14日(金)	京滋・大阪	ホテル　ブライトンシティ京都山科
18日(火)	栃木・茨城・宮城	ホテル　東日本宇都宮
19日(水)	長野	ささや
21日(金)	富山・石川	カナルパークホテル富山

◇◆マスターズ活動今後の行事予定

- ■ 12月11日　首都圏合同研修＆年末懇親会（スコーレ会館）
- ■ 1月9日　「心身開発コース」（スコーレ会館大広間）
- ■ 1月11日　首都圏「新春寿交禮」(町田・ザエルシー)
- ■ 1月23日　「人生学コース」（スコーレ会館ホール）
- ■ 1月末日　マスターズ通信42号発行予定
- ■ 2月6日　「心身開発コース」（スコーレ会館大広間）
- ■ 2月13日　「人生学コース」(スコーレ会館ホール)
- ■ 2月20日　東海「生きがい講座」　(岐阜市)
- ■ 3月6日　「心身開発コース」（スコーレ会館大広間）
- ■ 3月13日　「人生学コース」（スコーレ会館ホール）
- ■ 3月末日　マスターズ通信43号発行予定

青春 朱夏 白秋 玄冬

このコラムの名称は青春・朱夏・白秋・玄冬です。

青春という言葉は一般にもよく使われ、人生における若木の時期を指しています。朱夏とは人生の夏の時代で、赤々と燃える太陽のように活動的な時期といえます。

白秋は朱夏に続く時期で、実りの時期でもあるし、人生の秋の時代を表します。玄冬の「玄」という文字は「くろ」という色を表しています。玄人(くろうと)という言葉があります。黒と冬が結びついて、明るい表現ではないと思うのですが人生の終盤の時期を指しています。

人生を季節の進みに見たて、陰陽五行の色と組み合わせてこのような言葉が生まれたようですが、人生が長くなった今日、四つのステージではとても足りない。朱夏・白秋とも二つぐらいに分けられそうです。

陰陽五行では朱と白の間に「黄」があるようです。とすると朱夏と白秋の間に黄夏あるいは黄秋という時節があっても良いようです。また、マスターズでは人生の最終のステージを「不朽」という言葉で表していますが、これも良い言葉遣いです。私はいま、青春・朱夏・黄夏・白秋・玄冬・不朽のいったいどこにいるのかしら。　(岡本　一誠)

会員動向　9月末現在で、488名

9月末現在の会員数は、年度末目標500名に対し488名となりました。特に今上期は中央地区(町田相模・青葉都筑)の躍進著しく32名増、75名となり、また埼玉ブロックも7名の増加となりました。

年間目標達成の為、下期は、全国「その他地区」の会員増を期待しております。

＊編集後記＊

大相撲・白鵬の連勝記録がついにSTOPした。興味をそがれた様な、ホッとした様な複雑な感覚です。連勝記録で思い出されるのは、昭和の大横綱・双葉山です。連勝が途絶えた後に発した言葉「いまだ木鶏たりえず」は、あまりにも有名です。中国の古典からの引用で、木鶏とは、木彫りの軍鶏の様に、何事にも動じないさまを表しています。木鶏のような強さを目標として精進し、負けた時に、まだ木鶏のような状態になれていない、と言う気持ちを表して言った言葉です。スコーレでは、危機管理の重要性を教わりますが、危機に直面した時、この木鶏のように毅然とした態度で対応できるよう、精進していきたいものです。　(菊地　啓)

編　集：社団法人 スコーレ家庭教育振興協会
スコーレ・マスターズ　広報委員会
発行人：小俣富雄
〒252-0206 相模原市中央区淵野辺4-37-17
TEL ： 042-707-4500
http://www.schole-masters.org

スコーレ・マスターズ通信

第41号
平成22年11月30日

創立30周年記念大会　マスターズ会員が全国から参加

11月3日、東京中野サンプラザで「スコーレ協会創立30周年記念大会」が、文部科学省の後援を得て盛大に開催されました。「今こそ！生きる力、共感の愛」をテーマに、永池会長の記念講演を中心にした大会で、全国から2,426人が参加しました。

開会1時間前には、入場者が行列を成し、13時30分の開会時は超満員となりました。マスターズ会員も全国から続々と集まり、6月のマスターズ総会以来の顔合わせとなる方も多く、各所で声を掛け合う風景が見られました。

大会は、始めに「30年の歩み」が大スクリーンに映写され、懐かしい場面に会場から歓声があがりました。マスターズ関連では「危機管理事例集」や、生きがい講座風景が紹介され、面目躍如となりました。

式典では、永池会長の挨拶に続き、西原春夫元早稲田大学総長、坂東眞理子昭和女子大学学長から「スコーレ活動は現在の日本にとって、たいへん意義がある。永池会長から苦労話は聞いたことがありません。会員が率先して動くすばらしい団体を作られたことを羨ましく思います」と、祝辞が述べられました。次に、高木義明文部科学大臣、川上哲治元巨人軍監督、安田暎胤薬師寺長老の祝電が披露されました。そして式典から一転、大倉正之助氏の大鼓とＣＭソング女王MINEHAHAさんのコラボレーションで魅了されたあと、満を持して永池会長が登壇。「生きる原点から家庭の再生を」をテーマに、50分熱弁を振るいました。

永池会長は、「父と母と子、それが社会を形作る原点。人がなぜ尊いのかを日本人は考えていない」とのべ、生きる強さを育てる家庭の本当の力を呼び覚ますべきと、さまざまな事例を交え強調し、これからの取り組みを示しました。講演の最後は、10月に発売した新著「生きる強さを育てる家庭の底力」を掲げて、その巻頭にある豊水詩集の一編『ひとの内なる尊厳性』を読み上げて締めくくりました。

25周年大会と同様、今回もマスターズ会員は実行委員として17名が参加。会場警備、場外整理及びバス誘導に大活躍し、大会成功に大きく貢献しました。特に、来賓と一般参加者との受付誘導のためにプラカードを新規作成したり、大量の来賓土産やパンフレットの配送を担当したり、1･2階席の子供たちに振り回されながらの警備にと、大車輪の活躍を見せました。

スコーレ協会は30周年としてのすばらしい区切りをつけることが出来ました。マスターズは2012年に10周年を迎えます。それまでに一回りも二回りも大きくなっていたいものです。

ミニ学習会の開催

10月2日、山梨県忍野村でミニ学習会を開催致しました。会場は、普段私達が早朝会場として、利用させていただいている「紅陽荘」で、四季に応じて、富士山が眺望出来る高台にあります。小俣代表幹事を講師に迎え、講師を含めて5名。少人数ならではの和やかな雰囲気で、前半は、座禅・発生練習などの心身開発トレーニング。鳥のさえずりだけが聞こえる静かな雰囲気の中、自分の呼吸に集中し、充実した時間を過ごすことが出来ました。また、発声練習では、心身開発トレーニングにこのところ不参加ながら、衰えない山梨メンバーの声量にトレーナからおほめの言葉をいただきました。首都圏マスターズの講座が心身開発トレーニングと人生学講座と分かれてから、私達は、家庭の都合等で、なかなか参加出来なかっただけに、久しぶりに良い汗をかきました。後半は、危機管理事例集を使用してのテーマスタディ。幾つかの事例を取り上げて、その中で自分の立場に置き換えながら、お互いに意見交換を行うという貴重な体験を致しました。危機管理事例集は、何度か目を通しましたが、１つのテーマを掘り下げて朗読し、事例に対して、いかに克服・対応したかを議論することは、色々な面からの視点に気づかされることも多く、参考になりました。今後、首都圏の講座でも危機管理事例集をテキストにした学習会の機会があれば良いなと思いました。

学習会終了後は、会場近くの名物そば屋にて、ささやかな食事＆親睦会を行いました。今回は、スコーレマスターズ会員だけの参加となりましたが、このような学習会は、一般の方にも比較的受け入れやすい内容だったのではないかと思います。座禅や発生練習などの非日常的な体験が気軽にできるということも良い点だと思います。今後も各地でミニ学習会の輪が広がることを期待しております。　(関　直樹)

♪♪♪ 投稿コーナー ♪♪♪
（転職経験について）

転職経験から自分を高める

阪神ブロック　　細見　周造

大学卒業後は船会社に就職して、外国航路の貨物船の機関士として乗船しました。初めて乗った船は14万トンの原油・鉄鉱石の兼用船でした。いきなり3等機関士として乗り込み、ベテランの部員さんたちを指導する立場になりました。先輩士官たちのご指導をしていただきながら、何とか仕事をこなすことが出来るようになりました。ただ長い乗船生活により気持ちがなえることもあります。毎日同じ顔ばかりで人間関係が難しくなることもありました。長い時は1年以上船に乗ったままです。体力的にもつらいこともあり、8年ほどでこの船会社を辞めました。理由は辞めたいから辞めるというものでした。会社に迷惑がかかり、あまりいい辞め方をしなかったと今でも思っております。

好景気ということもあり、次はすんなり大手自動制御メーカー傘下の計装会社に就職することができました。職種は空調制御の設計、見積りなどの技術営業でした。サブコンの下請けという立場もあり達成感が少ないと感じておりました。この会社も7年ほどで辞めることになりました。自分の能力的なこともありますが、上司との折り合いも悪く辞めざるを得なくなりました。

当時まだ37歳、独身という気楽さもあったのかもわかりません。今回は「立つ鳥あとを濁さず」を心がけ退職しました。お陰様で現在勤めている会社との関係も良く、今でも当時の同僚とは付き合いが続いております。

次の就職活動はかなり厳しいものでした。履歴書でまずはねられる、面接にこぎつけても不採用の繰り返しでした。でもようやく今の会社に入ることができました。技術系の資格、経験を行かせる職場となり、前職の上司を見返してやろうという反骨心もあり、いろいろ悩みながらも15年勤めることができました。

私は2回転職をしておりますが、退職は辞め際が大事であると確信しております。次の会社とどうつながっているのかもわかりません。また、ほとんど人にも相談せず、辞めるときは自分で決め、就職も自分で決めております。ですから転職することについては悔いはありません。その都度経験したことも多く自分を高めることが出来たと思います。転職すれば収入ダウンはやむを得ないことですが、しばらく努力すればさほど変わらなくなります。しかし現在においては家族もあり、なかなか転職することは難しくなっています。年齢、タイミング、世間の景気などが影響されそうです。

サラリーマンである以上、会社というものはどこで何をしようと本質的には変わらないのかなと感じております。

３年間の子会社出向

埼玉ブロック　　山口　哲生

2007年7月から3年間、子会社へ出向し、今年の7月に親会社に戻りました。

会社都合であり、内示を伝えた事業所長からは、ハード設計部門をアウトソーシングするため、プリント板設計している子会社に入り、ハード設計部門を立ち上げる。手始めに10名ほどの人員を連れて行き、軌道に乗せ拡大していき、将来の幹部候補であるとの話でした。また、社長は親会社の元部長で良く知っている人で、社長の直属に業務推進する事になる、やり易いし、とてもやりがいがあると説明されました。

そういった良い面に対し、現状、大勢の部下の管理に追われて心の健康に問題を抱えていました。特に、出向先でも業務内容はほぼ同じで部下は皆知っている間柄で、数人とは、人間関係に問題がありましたので、新鮮味がなく、業務改革するにも困難が予想されました。

相前後して、体調をくずし、会社を休む事となりました。しかしそれが転機であったのでしょうか、社長はとても親身になってくれ、長い人生のなかで、1,2ヶ月は短い、この年齢で無理をしても仕方ない、あなたは、自分が思っている以上に、優秀で、出来る人、と評価し、励ましてくれ、元気に復活し、恩人と言える存在でした。

あまり残業を多くする事もなくなり、仕事人間から、脱却し、家庭の団欒が少し増え、ゆとりが出るようになってきました。

また、あくせく働いても、ゆとりを持って働いても、成果は変わらない事に気が付きました。

時代背景もあると思いますが、若い人を中心に仕事よりも家庭・趣味に生きがいを見出す、そういう生き方が、人身掌握につながり、処世術なのではと思い至りました。

私の経験がお役に立つかどうかわかりませんが私の等身大の想いを述べさせていただきました。

連　載　？

人生のBefore/During/After

青葉都筑ブロック　　桑折　能彦

人生学講座

ネパールの高校生との交流

父親が子供のために残業して海外研修費を稼いでくれたお話を紹介します。神戸市の垂水区に「兵庫県立舞子高校」があります。その高校には普通科以外に、日本でただ1校のみ『環境防災科』が設置されています。高校そのものの設立は1973年ですが、『環境防災科』は1995年に起こった阪神地震の教訓を後世に伝え、防災の大切さを啓発するために、震災から7年後の2002年に設置されました。震災の時は避難所として校舎・校庭が開放されました。

そこの生徒さん約10名が2002年以降、毎年夏休みを利用して約1週間ネパールを訪問し地元の高校生たちと防災をテーマにシンポジューム、弁論大会、避難訓練などを通して交流を続けています。

子どもを海外研修に・父親の想い

はるばる日本から来ていただくのですが、日本の夏休みの時期はネパールはまだモンスーンといって雨季にあたります。そのため素晴らしいヒマラヤの峰々を見ることが出来ないのが残念ですが、若い生徒同士が英語、また最近は現地語の会話をイラスト化した絵本で楽しくコミュニケーションをはかっています。

プログラム後半は一人ひとりのホームステイがあり、帰国の朝は男子生徒も女子生徒も涙、涙で別れてゆきます。この交流は学校行事として参加義務があるものではなく、あくまでも自由参加の行事となっています。

私がカトマンデゥ勤務のときに、その行事に参加する機会がありました。その時、ある生徒の１人が「この行事に参加できたのも車の運転手をしている父が、費用を稼ぐためにおおいに働いてくれたからです」と話してくれたのです。震災で自宅を失い、諸々の費用がかかる生活の中で、父親自身もその子供も共に防災に立ち向かう姿を見ることができました。せっかくネパールまで来たのだからお父さんへのみやげ話としてヒマラヤの美しさも見ていただきたいと思うのですが、自然はそううまくいきませんでした。いずれにせよ、わが家の再建を抱えつつ、海外研修行事に子供を参加させる力強い父親の姿が目に浮かぶのです。

“During（～している間）”の大切さ

ところでＴＶ番組や雑誌などで、“Before（～の前）／After（～の後）”という言葉を見聞しますが、私はこの神戸のお父さんのお話から“During（～している間）”の大切さを思い起こすのです。すなわち、過去の被災のことは忘れ、わが家を再建しつつ将来の楽しさを描きながら、現実の今をこなしている姿です。スコーレ学習の楽しさは学習前から学習後への達成・充実感はもちろんですが、人生の諸先輩、若い方がたと一緒に学んでいるDuringの今が実に楽しいのです。

1990年代経営破たんの危機にあった米コンチネンタル航空を立て直したゴードン・ベスーン氏は、“過ぎ去った滑走路を振り返るな。コックピットにバックミラーはない”という言葉を残しています。

このBefore/During/Afterは防災においても用いられています。Beforeは事前の対策（これをリスク・マネジメントと呼んでいる）、Duringは“地震だぁー、火を消せー”などと叫んだり、安全な机の下への避難などの発災中の対策、そしてAfterは発災後の対策です（これはクライシス・マネジメントと呼んで危機管理を分けている）。この災害が起こってしまったあとの対策の実例として、数年前カーブを曲がりきれず電車が脱線し、多くの負傷者を全社一丸となって迅速に救出した事故現場近くの工場のクライシス・マネジメントが、大変評価されたことを覚えている方も多いと思います。

スコーレと人生の自己実現・危機管理

いま私はスコーレにおいて、人生の自己実現・危機管理を学んでおります。危機管理もBefore/During/Afterの各相で正解は１つかも知れませんが人間そんなに完璧な人はいないと思います。いかに多くの近似解を日頃の生活の中（During）で見、聞き、学び、そして実践することだと思います。スコーレのテキスト『かく生きてこそ』の中で、幕末の儒学者・佐藤一斎の「少にして学べばすなわち壮にして為すことあり、壮にして学べば老いて衰えず、老にして学べば死して朽ちず」と言う言葉を知りました。

私はこれまでの人生に点をつけるとすると49点だと評価しています。これをまず51点にし、それから何点加算できるかこの言葉を実践したいと思います。　（完）